

## ○仙台・宮城北部森林管理署の「製品生産請負現地検討会」に出席しました。

青森事務所では毎年、森林管理署等の採材現地検討会等に参加し、技術指導や情報提供などを行うことで、国有林材を円滑・効果的に活用するよう努めています。

令和2年8月7日(金)に、宮城県七ヶ宿町の刈田嶽国有林で開催された「令和2年度 製品生産請負現地検討会」に、青森事務所から2名出席してきました。

霧雨が漂う少し肌寒い中、感染症予防のためマスクを着用しながらの開催でしたが、林業関係団体や県、市町村担当者、宮城県内の林業事業者など約90名が参加しました。

会場となった現地は林齢が55～65年生で平均胸高直径が18cmと細めのカラマツの間伐箇所であり、今回の採材協議会ではカラマツの小丸太及び広葉樹の採材について検討を行いました。

仙台森林管理署長の挨拶後、署担当者から検討会箇所の事業概要及び採材方法等の説明があり、続いて、あらかじめ準備されたカラマツ及び広葉樹について、班に分かれ採材方法の検討が行われました。検討した結果は各班の代表者から発表され、青森事務所からも採材のアドバイスをを行いました。また、曲がりの限度やカラマツ小丸太の採材、広葉樹の採材方法など、活発に意見交換が行われました。

iPadで林道沿いに積まれた丸太を写真撮影すると本数や材積を計測できるアプリ「AI丸太検知くん」を紹介・実演し、参加者にも体験してもらいました。

その後、講評として青森事務所からも、宮城県内の需要動向を踏まえた有利採材についてお話をさせていただきました。

最後に宮城北部森林管理署長から、採材検討会を通じて研鑽を深め、1本の木を100円でも高く売るということを通じて、宮城県の木材産業、林業を活性化していきたい、併せて林業の労働災害について注意喚起し、閉会となりました。

青森事務所では今後も国有林材の有効な利用促進に貢献して参ります。

